【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成27年6月11日(2015.6.11)

【公開番号】特開2015-27299(P2015-27299A)
【公開日】平成27年2月12日(2015.2.12)
【年通号数】公開・登録公報2015-009
【出願番号】特願2014-169708(P2014-169708)
【国際特許分類】
Ａ２３Ｋ　1/16　(2006.01)
Ａ２３Ｋ　1/18　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/7052　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/04　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/7076　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/7068　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/708　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/7072　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/04　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　29/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/12　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　33/14　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　33/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ２３Ｋ　1/16　３０３Ｆ
Ａ２３Ｋ　1/16　３０３Ｄ
Ａ２３Ｋ　1/18　１０２Ａ
Ａ２３Ｋ　1/18　１０２Ｂ
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｋ　31/7052
Ａ６１Ｐ　31/04　１７１
Ａ６１Ｋ　31/7076
Ａ６１Ｋ　31/7068
Ａ６１Ｋ　31/708
Ａ６１Ｋ　31/7072
Ａ６１Ｋ　45/00
Ａ６１Ｐ　37/04
Ａ６１Ｐ　29/00
Ａ６１Ｐ　31/12　１７１
Ａ６１Ｐ　33/14
Ａ６１Ｐ　33/00　１７１

【手続補正書】
【提出日】平成27年4月21日(2015.4.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】

【特許請求の範囲】
【請求項１】
通常の飼料成分を含んでなる飼料組成物、栄養組成物または機能性飼料であって、ペプチドグリカンおよびヌクレオチドを含んでなり、ペプチドグリカンが０．００１－０．０１重量％の範囲であることを特徴とする、飼料組成物、栄養組成物または機能性飼料。
【請求項２】
前記ペプチドグリカンが、０．００１－０．００５重量％、好ましくは０．００５重量％の範囲である、請求項１に記載の飼料組成物、栄養組成物または機能性飼料。
【請求項３】
前記ヌクレオチドが、０．０５％－１重量％、好ましくは０．１－０．５重量％、最も好ましくは０．２重量％の範囲である、請求項１または２に記載の飼料組成物、栄養組成物または機能性飼料。
【請求項４】
前記ペプチドグルカンに対する前記ヌクレオチドの重量比が、４より大きく、更に好ましくは２０より大きく、更に好ましくは４０より大きい、請求項１～３のいずれか一項に記載の飼料組成物、栄養組成物または機能性飼料。
【請求項５】
前記ヌクレオチドが、アデノシン一リン酸、シチジン一リン酸、グアノシン一リン酸、ウリジン一リン酸、チミジン一リン酸を含んでなる群から選択される、請求項１～４のいずれか一項に記載の飼料組成物、栄養組成物または機能性飼料。
【請求項６】
前記飼料組成物、栄養組成物または機能性飼料が、更に他の免疫刺激および／または抗炎症成分を含んでなる、請求項１～５のいずれか一項に記載の飼料組成物、栄養組成物または機能性飼料。
【請求項７】
前記飼料組成物、栄養組成物または機能性飼料が、感染前の４～１２週間給餌される、請求項１～６のいずれか一項に記載の飼料組成物、栄養組成物または機能性飼料。
【請求項８】
前記感染が、Piscirikettsia salmonis、Moritella viscosa、Francisella種、マウス・ロット、連鎖球菌感染症、ビブリオ感染症等の細菌、膵臓疾患、ＮＳＡＶ、鰓炎症（GI）、心臓・骨格筋炎症（HSMI）、サケ伝染性貧血症（ISA）ウイルス、サプロレグニオシス、およびウミシラミ感染症によって引き起こされる、請求項７に記載の飼料組成物、栄養組成物または機能性飼料。
【請求項９】
動物の感染性疾患の予防および／もしくは処置、並び／または疾患の症状の軽減のための医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料であって、通常の飼料成分、ヌクレオチドおよびペプチドグリカンを含んでなり、ペプチドグリカンが０．００１－０．０１重量％の範囲である、医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。
【請求項１０】
前記ペプチドグルカンが、０．００１－０．００５重量％、好ましくは０．００５重量％の範囲である、請求項９に記載の医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。
【請求項１１】
前記ヌクレオチドが、０．０５重量％－１重量％、好ましくは０．１－０．５重量％、最も好ましくは０．２重量％の範囲である、請求項９または１０に記載の医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。
【請求項１２】
前記ペプチドグルカンに対する前記ヌクレオチドの重量比が、４より大きく、更に好ましくは２０より大きく、更に好ましくは４０より大きい、請求項９～１１のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。
【請求項１３】

前記ヌクレオチドが、アデノシン一リン酸、シチジン一リン酸、グアノシン一リン酸、ウリジン一リン酸、チミジン一リン酸を含んでなる群から選択される、請求項９～１２のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。

【請求項１４】

前記医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料が、更に他の免疫刺激および／または抗炎症成分を含んでなる、請求項９～１３のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。

【請求項１５】

感染体に攻撃された魚の生存および／または成長を増加させるための、請求項９～１４のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。

【請求項１６】

前記感染が、Piscirikettsia salmonis、Moritella viscosa、Francisella種、マウス・ロット、連鎖球菌感染症、ビブリオ感染症のような細菌、膵臓疾患、ＮＳＡＶ、鰓炎症（GI）、心臓・骨格筋炎症（HSMI）、サケ伝染性貧血症（ISA）ウイルス、サプロレグニオシス、およびウミシラミ感染症によって引き起こされる、請求項９～１５のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。

【請求項１７】

動物が、水生動物である、請求項９～１６のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。

【請求項１８】

水生動物が、魚類、甲殻類または軟体動物である、請求項１７に記載の医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。

【請求項１９】

感染後の効果的回復および／または感染による抗生物質処置のための、および／または再感染の危険を軽減するための、請求項９～１８のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。

【請求項２０】

抗生物質と組み合わせたおよび／または抗生物質処置の前の感染症の改良処置のための、請求項９～１９のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。

【請求項２１】

前記医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料が、感染前の４～１２週間給餌される、請求項９～２０のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物または機能性飼料。

【請求項２２】

感染症に罹りやすい魚類の給餌方法であって、請求項１～２１のいずれか一項に記載の飼料組成物、栄養組成物、機能性飼料または医薬組成物を、感染体に攻撃される前の期間、感染中または魚が感染してしまった後に魚に供給することを特徴とする、方法であって、前記組成物を感染前に４～１２週間給餌する、方法。

【請求項２３】

組成物を感染前の４～６週間給餌する、請求項２２に記載の方法。

【請求項２４】

魚にヌクレオチドを更に含んでなる通常の飼料組成物を所定期間給餌した後、請求項１～２１のいずれか一項に記載の飼料組成物、栄養組成物、機能性飼料または医薬組成物を給餌する、請求項２２または２３に記載の方法。

【請求項２５】

ヌクレオチドを更に含んでなる飼料組成物を１～８週間、好ましくは２～４週間、最も好ましくは３週間給餌する、請求項２４に記載の方法。

【請求項２６】

前記感染が、Piscirikettsia salmonis、Moritella viscosa、Francisella種、マウス・ロット、連鎖球菌感染症、ビブリオ感染症のような細菌、膵臓疾患、ＮＳＡＶ、鰓炎症（GI）、心臓・骨格筋炎症（HSMI）、サケ伝染性貧血症（ISA）ウイルス、サプロレグニ

オシス、およびウミシラミ感染症によって引き起こされる、請求項２２～２５のいずれか一項に記載の方法。